

## 《芽ばえ賞》

「差別の無い世の中へ」

有田市立箕島中学校 2年

由良 沙優 さん

私は、六月に杉原製パン所に職場体験に行かせていただきました。ここは、障害を持った人と一緒に働く場所です。私が体験をした時は、二人いました。二人共、私たちに優しく接してくれました。事前学習の時に、

「出来ないことがあるかもしれないからお互い助け合ってね。」

そう言われていたので、出来ないことは助けてあげよう、と思っていました。けれど、私達が助けてもらっているばかりでした。その時、私はその人達に対する印象が変わりました。今までは、自分達とは少しちがう、出来ることがほとんどない、そういうふうな差別的なことを思っていました。でも今は、私たちとほとんど変わらないって思うようになりました。

私が体験をした日に、障害者の人が、粉の分量をまちがえてしまって、焼きあがると、カチコチのパンになってしまいました。その時、他の人は怒らずに

「次から気をつけてね。ちゃんと紙見てね。」

優しく教えてあげていました。そこで、私はその人たちへの接し方をしっかり考えないといけない、と思いました。その後に、働いている方に大変なことをたずねると「支援の仕方」と言っていました。その人にあった接し方や教え方を考えないといけないそうです。

私は、今までの自分のように、障害者の人に対するあまり良くない印象を持っている人が何人も居ると思います。でも、私のようにその印象が変わる人がたくさん居てほしいです。すごく優しくして良い人達なのに、「障害があるから」それだけで差別されたり、偏見を持たれる必要がないと思ったからです。

私は、職場体験の日から、「障害」と思うのではなく、「ひとりひとりが持つ個性」と思うようになりました。誰にでも出来ること出来ないことはあります。例えば、友達の子は、英語が得意でたくさん話せる。でも私は苦手で習ったことを少し使えるぐらい。このように、人、ひとりひとりで出来ることはすごく変わります。これが「個性」で障害も同じようなことだと思えます。だからこそ、みんな、出来ないことを助け合ってお互いで良い環境をつくれるようにしていきたいです。

私は、まだ子供だし、それをたくさんの人に伝えて行くことは出来ないけれど、大人になるにつれてたくさんの人に知ってもらえるようにしたいです。そして、障害者の人とまた話したり、なにかを体験したりしてみたいです。そして、私が大きくなったら、今回体験したような場所でも働いてみたいと思いました。

今、障害者の人が働ける場所は少ない、と聞きました。それで、障害者の人達

の生活が苦しくなるという問題も起こるかもしれません。だから、今後は、障害者の人と一緒に働くことができる場所をもっと増やしてほしいと思います。そして、その人達のことをもっと知って差別的なことが無い世の中になってほしいと思います。